

原 裕也

HARA Yuya

木材をストックする家具 作品「temporary furniture」及び研究報告書

The furniture that keeps wood Work "temporary furniture" with Research Paper

デザイン学領域群 クラフト領域



temporary furniture

上：1800×450×360mm

中：500×250×1100mm

下：1500×450×360mm

ケヤキ、タモ、ブナ、紐

2012

序章

本研究では木材を保管しながら家具として機能する作品の制作を目的とした。木材を資源として生活空間に保管しながら使うという行為自体は、古来より日本で行なわれてきた。そうした史実に着目し、木材のリサイクルを考えた家具制作を通して、これからの家具のあり方や『ストックする家具』独自の造形を探った。また、木材の材としての耐用年数の長さを活かすような長期的なタイムスパンで見据えた作品研究を目的とした。特に木材を段階的に使い、材としての寿命を全うさせるという課題を解決する方法を示す。素材本位で家具の制作を考えることによって、より深い材との関わり方について考察していく。

第1章 ストックする家具の定義

『木材をストックする家具』がどのようなものかを定義付け、本研究が目指しているものを如実にした。日本の伝統的な木の使い方からインスピレーションを得た研究である。ストックする家具は、木材の状態を良いものに保ちつつ、次に使われる時のために材の脱着をしやすいものとする。この研究の背景として、現在の日本国内での木材や木製品の扱われ方、森林環境の抱える問題がある。多くの森林があり、木材の需要が高いにも関わらず、日本の輸入木材への依存度は高い。伐採が必要な森林が増える一方で、木の良材とされるものは希少なものとなっていることがある。国産の良質な木材を使用し、同じ材を長く運用していくことが求められている。それらを踏まえ、木材をストックする家具について研究した。

第2章 ストックする木材について

作品制作において木材に対する知識を得るための調査をした。木材をストックすることの意義を考察し、現在の木材資源のリサイクルを含めて論考した。木材は、時間の経過と共に強度を増し、歪みや変形も少なくなる。そうした性質を持つ木材はカスケード(段階的)な利用

が理想とされていて、再利用するという考えの元に木製品の生産を行なう必要がある。断続的に行なわれている木材利用を流動的に繋げるための利用法として、木材をストックしながら使用する。木材を長く使っていくためには、あまり材に負担がかからない用い方が必要となる。ストックする家具の考察を行なった結果、『仮の家具』というテーマで作品制作を行なうことにした。ストックするという行為を強調させるような家具をつくり、こちらの意図を分かり易く伝えられる作品を制作する。

第3章 仮の家具の事例研究

『仮の家具』、“temporary furniture”を制作するにあたり、類似する作品を研究することにより造形表現や機能についての考察をした。特に、どのような手法で木材を用いて家具として成立させるのか研究した。いくつかある固定方法の中で大まかに「クランプ」「紐」「木組」の3つに分類しそれぞれ分析した。考察の結果、造形の中でストックするというポイントの見せ方が重要だという考えに至った。シンプルにストックを表現することで、ユニークな造形を示すこととした。また様々な作品を比較した所、紐を用いた方法に興味深い作品が多くあった。「紐」は私達の生活に馴染み深いもので、それゆえに使い勝手も良い。本章で論考した成果として、紐を用いて『木材をストックする家具』を制作することを決めた。

第4章 紐と結び

紐を用いた作品の意味について、紐と結びについての文化・歴史などを調査し、論述した。私達にとって紐や結びは原始からある技術であると同時に人々にとって神秘性のある文化でもあった。特に、日本では信仰の対象とさえされ、慶事や仏事などで重要な役割を担っている。結ぶという事自体が意味を持ち、単なる機能的なものでなく装飾や封印などといった人々の想いを孕んだものとなっている。そうした結びなどは日本の文化形成の中

で不可欠な要素であった。「結び」は、誰でも容易に扱える面においても、家具に用いることは相応しい。ストックする家具では組立・解体のし易さが必要で、紐はその上でも多くの可能性のある技術だと考察する。

第5章 修了制作

紐を用いた木材をストックする家具は、時の流れを意識する必要がある作品である。作品を時間軸で捉え、一連の作品群を“temporary furniture”としてこの試みがどのようなものを表現した。今より前にストックされていた古材を用いて、また新たな家具をつくり、その家具が役目を終えると、ストックされていた木材をまた別の形でストックする。そうして木材の寿命を使い切るための流動的な制作を行なう。小さな木の棒を用いて紐をねじり上げることでテンションを出し、縛り上げることで家具としての構造を持たせるようにした。紐を結びねじることによって完成し、紐を解くことで解体できるように仮の家具を制作した。

終章

木材をストックする家具は、木という素材をうまく運用していくための方法であり、木材本位な作品である。カスケードな木材の利用によって、材の実力を遺憾なく発揮させるような流れをつくり、木材資源を有効に用いる。木を使う時、森林環境にまで配慮する必要がある。良材が少なくなっていることから、木材を耐用年数分使い切ることが重要で、そのための手段の一つに本研究がある。全章を通してストックする家具の是非について論述してきたが、その結果として本作品を提案する。